



環境・安全報告書

2009

旭有機材工業株式会社

旭有機材工業とは

◆ グループ理念・行動規範

旭有機材グループ理念

旭有機材グループ理念

基本理念

私たち、旭有機材グループは、「挑む・創る・変える」の改革精神で新たな価値を創造・提供し、人びとの豊かなくらしに貢献します。

経営理念

人が主役です

人を大切にし、働きがいのある会社づくりをめざします。

ステークホルダーの信頼が命です

ステークホルダーに満足していただける商品・サービスと適切な情報を提供し、信頼を高め、高収益の会社をめざします。

技術がキラリと光ります

独自の技術で常に新しい分野に挑戦し、スピーディーにイノベティブな商品開発をめざします。

世界に挑戦します

国際社会に通用する商品開発力とマーケティング戦略により、グローバルな事業展開をめざします。

安全衛生・環境保全是使命です

安全衛生活動を積極的に推進するとともに、環境に優しい商品の開発と、環境に配慮した生産をめざします。

法と社会規範を守り、社会と共に歩みます

倫理性の高い企業活動と、良き企業市民をめざします。

行動規範

行 / 動 / 規 / 範

- ・顧客優先の徹底
- ・クイックレスポンスの励行
- ・情報の共有化
- ・失敗を恐れず変革に挑戦
- ・飽くなき好奇心と自己啓発、部下の育成
- ・国際感覚の涵養
- ・IT技術の先進的な活用
- ・リスクマネジメントの徹底
- ・知的財産と契約の重要性認識、機密保持
- ・企業倫理の遵守

INDEX

旭有機材工業
環境・安全報告書
2009

旭有機材工業とは	1
グループ理念・行動規範 トップメッセージ 旭有機材工業プロフィール	
環境・安全	5
環境・安全について	
環境保全活動	7
環境マネジメントシステム	
環境負荷低減活動	9
生産活動と環境負荷 地球温暖化対策について 工場の環境負荷低減活動 植樹によるCO ₂ の吸収	
労働安全衛生	12
安全な職場づくり 労働安全衛生教育 労働安全衛生の社外との連携	
健康の保持と増進	13
健康の保持・増進	
保安防災	14
災害の未然防止と緊急対応	
地域貢献活動と地域活動への参加	15
地域貢献活動 日米交流の架け橋 地域活動への参加	
・発行に当たり	17
・国内拠点	18



旭有機材工業株式会社
代表取締役社長

佐次 洋一

私たちの使命

歴史的な大不況のトンネルの中、経営環境は相変わらず不透明な状況が続いていますが、どのような時代にあっても、当社は経営理念にも掲げているとおり「環境・安全」を経営の最重要課題のひとつとしてこれからも取り組んでいきます。「環境・安全の確保」や「地球環境の保全」への対応に関しては、事業経営のベースと考え、関連投資も積極的に行っていきます。同時に社会への貢献、地域活動への積極的参加も大切な企業活動と位置づけていきたいと思っています。

「環境・安全活動」の推進

当社の「環境・安全活動」は、ここ数年間で着実に全社に浸透し成果も上がってきました。例えば工場の安全査察等を通じて、リスクアセスメントが手順良く実行されリスクの低減もかなり達成されていることが実感でき、大変喜ばしく思っています。これは当社の環境安全担当部門とCSR^{※1}活動組織のひとつである「環境・安全委員会」が中心となって活動を推進したこと、社員一人ひとりの日ごろの創意工夫と努力の賜物であります。しかし「環境・安全活動」にゴールはありません。今後も常に油断なく行動し、万全の危機管理で臨んでいかねばなりません。

企業の風土づくり

当社は「挑戦と変革」を企業精神とした風土づくりを目指す「CC21活動」を推進しています。今年からの活動テーマは「お客様視点」です。「安全」で「環境に優しい」ものづくりも「お客様視点」でもう一度見直し、更にレベルアップを図っていきたいと考えています。

※1：“Corporate Social Responsibility”の略で「企業の社会的責任」と一般に訳されている。

◆ 旭有機材工業プロフィール

会社概要

商号 旭有機材工業株式会社
 本社所在地 延岡本社：〒882-8688 宮崎県延岡市中の瀬町2丁目5955番地
 東京本社：〒101-0047 東京都千代田区内神田2丁目15番地9号 内神田282ビル
 設立 昭和20年3月12日
 資本金 50億10万円
 社員数 761人（連結1,144人）
 代表取締役社長 佐次洋一

製品概要

- 1952年に世界初の塩ビ製バルブ(AVバルブ)を開発。
- プラスチックバルブで国内外トップシェア

配管材料



アサヒAV

●主力製品のバルブをはじめ、パイプ、継手などの合成樹脂配管材料を開発、製造しています。

IT装置向け



Dynamatrix

●半導体、液晶ディスプレイ製造用装置の各種流体ライン向けのバルブを開発、製造しています。

管
材
シ
ス
テ
ム
事
業
部

プラントエンジニアリング



●当社製品を活用し、配管ラインの設計、施工を行っています。

ソーダ電解プラント

環境ソリューション製品



●当社のエンジニアリング技術を環境関連分野に応用し、水処理装置を開発、製造しています。

AVライト

- 国内有数のシェアを占めるAVライト(フェノール樹脂)は、自動車、電子、建設など、半世紀にわたり、日本経済の基幹産業を支えてきました。

鋳型材料



●「AVライト®」シェルモールドレジ

●RCS(レジコーテッドサンド)

エンジンのシリンダーヘッド



エンジン製作用の中子

電子材料樹脂



●クレゾールノボラック樹脂

フォトレジスト



半導体、FPD製造に利用されています。

樹
脂
事
業
部

成形材料



●金属部品の代替で、軽量化に貢献

エンジン変速部品



●電気特性に優れる電子部品の封止材として

工業用樹脂



●工業用耐熱レンガ、ゴムタイヤ、耐火建材



●新フェノールウレタン現場発泡断熱システムゼロフロン®ER⇒住宅用断熱材

環境・安全

◆ 環境・安全について

「環境・安全」とは、環境保全・労働安全衛生・健康保持増進・保安防災・製品安全などの総称で、製品の開発、製造、販売、および廃棄物の処理に至るあらゆる活動において、環境や人の安全に与える問題の発生を未然に防止するとともに、問題が発生した場合に適切に対応することを目的とした活動をいいます。

環境・安全に関する経営方針

旭有機材グループでは「環境・安全に関する経営方針」を制定しています。

環境・安全に関する経営方針

理 念

当社は環境保全・労働安全衛生・保安防災および製品安全を、経営の最重要課題のひとつとして捉え、常に人や環境に優しい製品を開発、生産ならびに提供することを使命と認識し、事業活動を通して地球環境の保全と安全・衛生の確保に努めます。

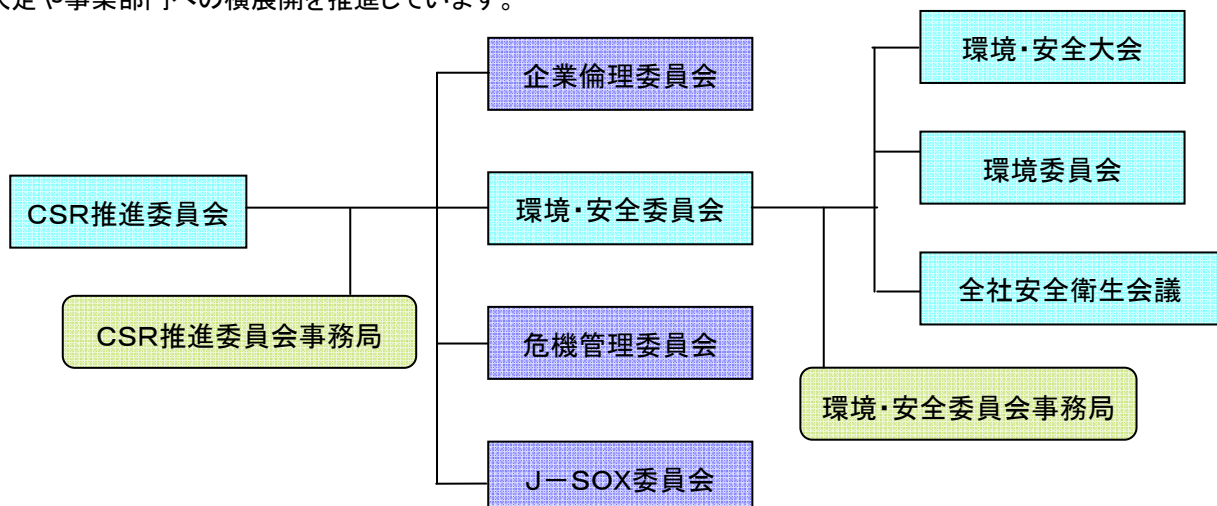
方 針

環境保全と安全確保は事業活動の基本である。

1. 環境保全活動の推進
製品に関わるすべての事業活動を通して環境保全に貢献します。
2. 安全衛生活動の推進
安全教育や設備安全化および安全衛生管理を通して、労働災害の防止を図ります。
3. 健康の保持と増進
快適な職場環境の実現に努め、健康の保持と増進を図ります。
4. 保安防災活動の推進
安定操業の維持と保安防災の向上に努め、従業員と地域社会の安全を確保します。
5. 製品安全の確保
製品の開発から廃棄に至るすべての段階において、技術向上と製品管理を徹底し、製品の安全性を確保します。

環境・安全活動の推進体制

旭有機材グループでは、「CSR推進委員会」を設置し、全社のCSR活動を展開しています。また、CSR推進委員会の下部活動委員会のひとつである「環境・安全委員会」において、グループ全社の環境・安全活動の計画の決定や事業部門への横展開を推進しています。



環境・安全活動の目標と達成状況

旭有機材では、環境・安全活動の目標を設定し、それを計画的に実行することで継続的な改善活動に取り組んでいます。

環境・安全活動の2008年度目標と達成状況および2009年度の目標

[●：達成 ▲：一部達成 ×：さらに取組みが必要]

項目	2008年度の目標	2008年度の実施状況	自己評価	2009年度の目標
全般	環境・安全報告書(社員向け)の発行	初版を発行し6月に社員に公開しました。	●	環境・安全報告書(一般公開用)を発行する。
	環境・安全査察による活動状況のチェック	社長査察・事業部長査察・製造所長査察実施しました。	●	製造部門代表者の相互同伴査察により査察の機能強化をはかる。
	第5回環境・安全大会の開催	延岡本社を拠点として全社でTV会議中継しました。	●	第6回環境・安全大会を開催する
環境保全	省エネルギー活動(原単位で年平均1%の削減)	電気・熱・貨物輸送に係るエネルギー使用量原単位の1%削減は5工場のうち4工場未達。	▲	エネルギー使用量原単位で年平均1%削減する。
	地球温暖化対策(排出量で年平均1%の削減)	電気・熱・貨物輸送に係るエネルギー起源二酸化炭素の排出量は15%の減少となり、目標を達成しました。	●	二酸化炭素の排出量で年平均1%削減する。
	「企業の森林づくり」	第1回の植樹祭を実施しました。(ゆうきの森) 植樹はケヤキなど7,500本	●	補植のため第2回植樹祭を行う。植樹は山桜400本
労働安全衛生・健康	労働災害の年千人率の目標値:2.0以下(2件以下)	休業:0件 不休:3件 応急:0件 年千人率は2.7(延岡地区と樹脂製造所)	▲	労働災害の年千人率を1.0以下とする。(延岡地区と樹脂製造所)
	リスク低減:リスクレベルⅣ(優先的に対策が必要)の解消	86件のリスクレベルⅣは優先的な改善によりすべてレベルⅢ以下になりました。	●	優先的な改善により42件のリスクレベルⅢ(段階的に対策が必要)を20件以下にする。
	工場柵内の受動喫煙防止対策の推進(受動喫煙リスクの解消)	29箇所の受動喫煙箇所のうち、28箇所の対策が完了しました。	▲	残り1箇所の未対策箇所の対策を完了する。(2009年6月末に完了)
	AED(自動対外式除細動器)の配備	主要拠点6箇所に配備しました。	●	担当者に維持管理方法に関する情報を提供する。
保安防災	産業事故災害の防止	産業事故災害の発生はありませんでした。	●	産業事故災害ゼロを継続する。
	延岡本社事務所の防災訓練の実施	製造部門とは別に、延岡地区の防災訓練の一環として3月25日に実施しました。	●	効果的な防災訓練を社内横展開する。

全国環境・安全大会を開催(2009年3月12日開催)

全国環境・安全大会は旭有機材グループで「環境・安全に関する経営方針」を広く実践するために、すべての従業員が環境・安全に対する意識を高め、自主的な改善活動を推進するとともに、事業活動を通して社会に貢献することの重要性を認識し行動することにつなげることを目的として毎年開催しています。

2008年度で5回目の開催となり、この模様はTV会議システムにより全国5箇所の拠点で中継されました。



方針を示す社長



特別講演:宮崎県危機管理局 松野義直
「宮崎県を襲う災害と防災対策について」

環境保全活動

◆ 環境マネジメントシステム

旭有機材では、国際規格であるISO14001の認証を取得し、ISO14001の規格に沿った環境保全活動に取り組んでいます。

ISO14001 認証取得

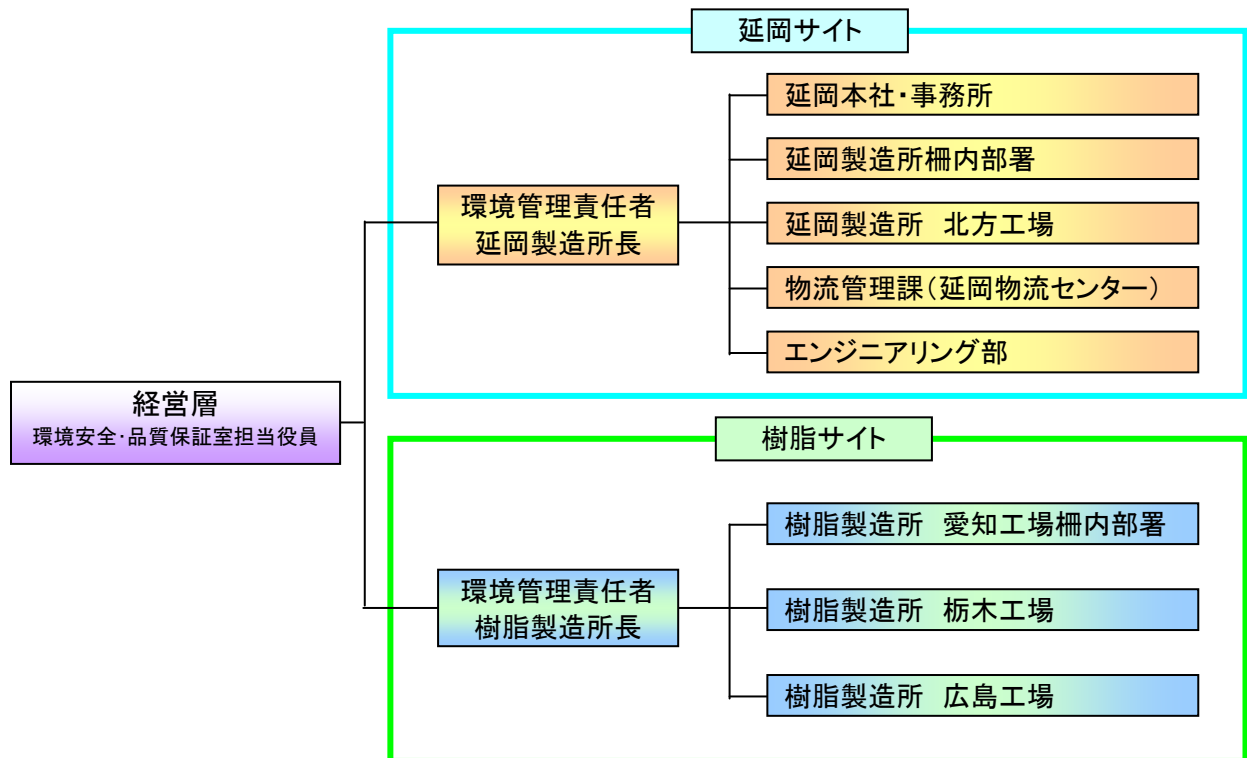
延岡地区と樹脂製造所(愛知工場、栃木工場、広島工場)を適用範囲として認証を取得しています。

	延岡サイト				樹脂サイト		
	延岡本社	延岡製造所	天下テクノセンター	北方工場	愛知工場	栃木工場	広島工場
認証取得年月	2002年5月				2006年3月		

推進体制

ISO14001は、環境安全・品質保証室担当役員を経営層とし、延岡製造所長を環境管理責任者とした延岡サイトと樹脂製造所長を環境管理責任者とした樹脂サイトで構成されています。

延岡サイトは17部署、樹脂サイトは9部署で構成され、サイトごとの事業活動に伴う環境側面と環境影響の関係を考慮した環境負荷低減活動に取り組んでいます。

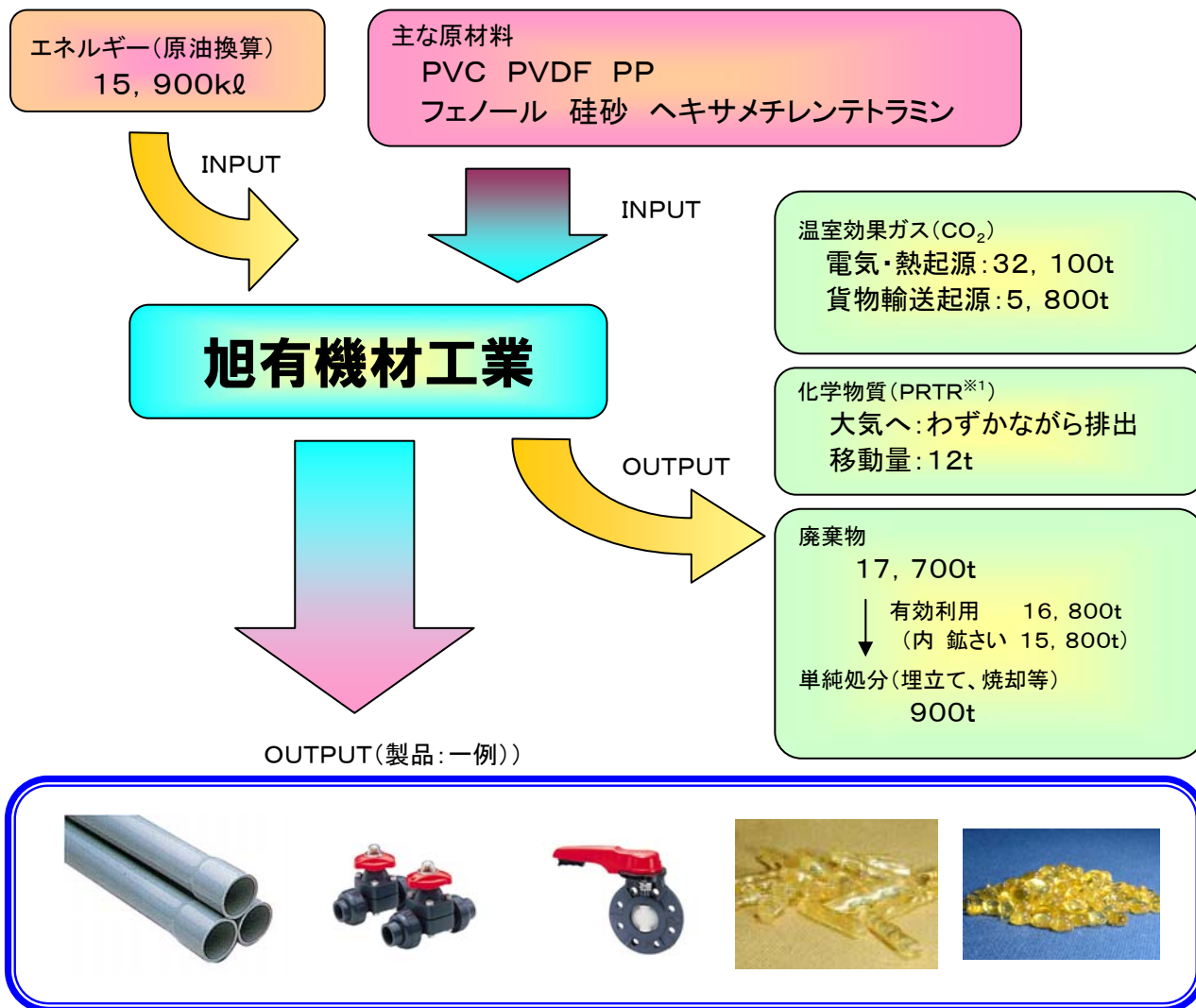


環境負荷低減活動

◆ 生産活動と環境負荷

生産活動と環境負荷

旭有機材の2008年度の生産活動と環境負荷の関係を示します。



PRTR法による化学物質の適正管理

PRTR法※¹で旭有機材が排出量および移動量を管理している化学物質

製造所および工場	PRTR法により管理している化学物質
①延岡製造所	有機スズ化合物・鉛及びその化合物・アンチモアン及びその化合物・ヘキサメチレンテトラミン・フェノール
②北方工場	有機スズ化合物・鉛及びその化合物
③愛知工場	亜鉛の水溶性化合物・ビスフェノールA・エチレングレコール・クレゾール・ダイオキシン類・ヘキサメチレンテトラミン・1,3,5-トリメチルベンゼン・フェノール・ホルムアルデヒド
④栃木工場	ダイオキシン類・ヘキサメチレンテトラミン
⑤広島工場	ダイオキシン類・ヘキサメチレンテトラミン

※1: 特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

◆ 地球温暖化対策について

旭有機材では、地球温暖化対策として、省エネ法と地球温暖化対策法の趣旨に基づいて方針を定め、各工場で電気・熱起源エネルギーの使用原単位の削減、温室効果ガス(CO₂)の排出量削減に取り組んでいます。また、設備更新時にはよりCO₂排出量の少ない設備やエネルギーへの転換を図っています。

地球温暖化対策に関する『方針』

地球温暖化対策に関する方針

当社は事業活動が環境に負荷を与えることを自覚し、国や地方公共団体の地球温暖化対策に協力するために、事業活動にともなうエネルギー原単位の削減と二酸化炭素の排出の抑制に取り組めます。

- (1) 生産活動にともなう電気・熱エネルギー使用の原単位の削減と二酸化炭素の排出の抑制
- (2) 貨物輸送にともなうエネルギー使用の原単位の削減と二酸化炭素の排出の抑制

地球温暖化対策に関する長期目標

- (1) 生産活動にともなう電気・熱エネルギー使用の原単位は2006年度実績を基準として2011年度は5%削減する
- (2) 貨物輸送にともなうエネルギー使用の原単位の2006年度実績を基準として2011年度は5%削減する
- (3) 生産活動にともなう電気・熱エネルギー起源二酸化炭素排出量は2006年度実績を基準として2011年度は5%削減する
- (4) 貨物輸送にともなうエネルギー起源二酸化炭素排出量は2006年度実績を基準として2011年度は5%削減する

太陽光発電システムの導入

購入電力の削減や、環境に対する社員の意識啓発を目的として、延岡本社事務所では2006年3月から、愛知工場でも2008年4月から、太陽光発電システムが稼働しています。

延岡本社の太陽光発電システムによる発電量は、24,700kwh(2008年度実績)で延岡本社での電力使用量の約20%をまかっています。



太陽光発電パネルの写真

左: 延岡本社屋上の太陽光発電システム(定格出力:20kW)

右: 愛知工場の太陽光発電パネル (定格出力:3kW)

愛知工場の燃料転換について(LNG)

愛知工場では、ボイラー設備の更新の際、地球温暖化対策を考慮し、2008年度から石油系燃料(C重油)よりCO₂排出量の少ない液化天然ガス(LNG)へ変更しました。

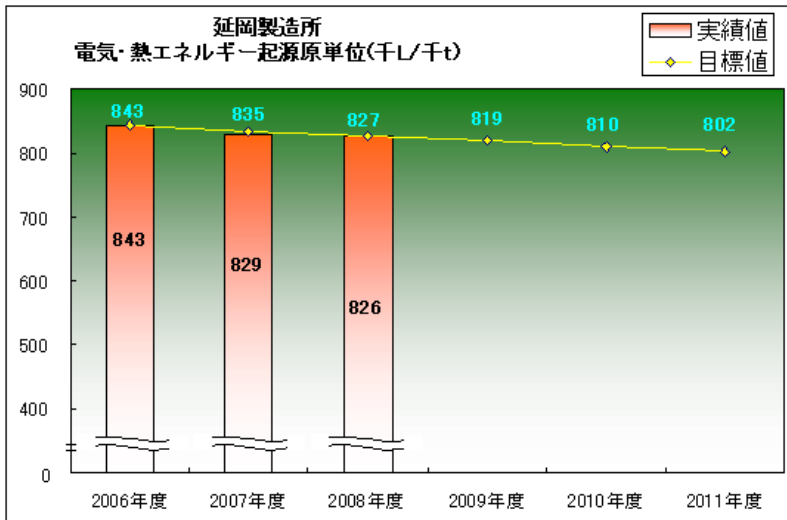
これにより、2008年度の愛知工場全体の電気・熱エネルギー起源CO₂排出量は13%の削減を達成しました。



愛知工場に設置されたLNGタンク

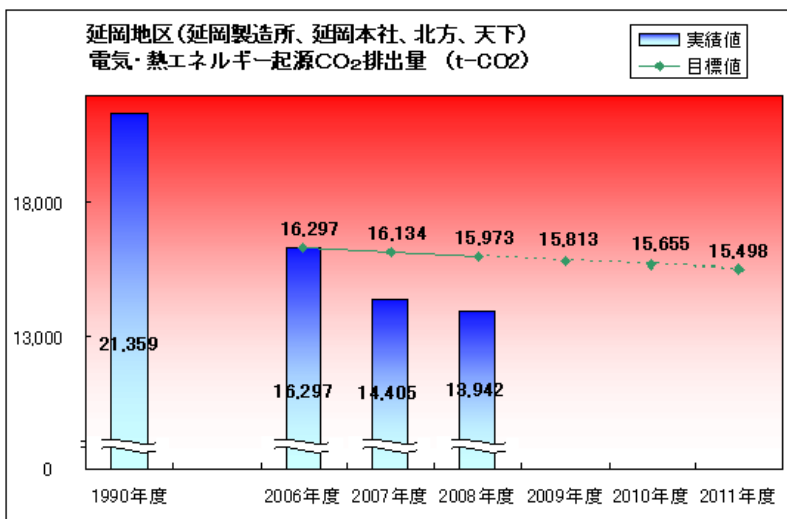
電気・熱エネルギー起源CO₂排出量の削減と原単位削減の推移

延岡製造所における電気・熱エネルギー使用の「原単位」と、延岡地区における電気・熱エネルギー起源の「CO₂排出量」の推移は次のグラフのとおりです。(CO₂排出量については1990年実績も記載しました。)



2006年度から2008年度までは、目標値をクリアしています。

延岡製造所 電気・熱エネルギー使用原単位

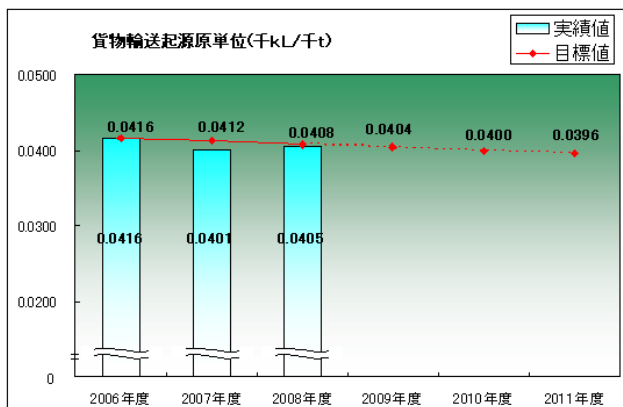


2008年度は、1990年度対比35%減少しています。

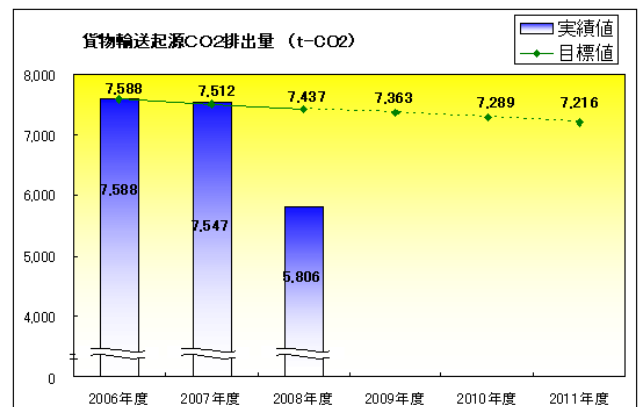
その大きな要因は、一部事業の再構築にともなう生産縮小および、コストダウン対策としての製造設備の更新によるものです。

延岡地区 電気・熱エネルギー起源CO₂排出量

また、全社の貨物輸送エネルギー使用の「原単位の推移」と貨物輸送エネルギー起源の「CO₂排出量の推移」は次のグラフのとおりです。



(貨物輸送エネルギー使用の「原単位の推移」)



(貨物輸送エネルギー起源の「CO₂排出量の推移」)

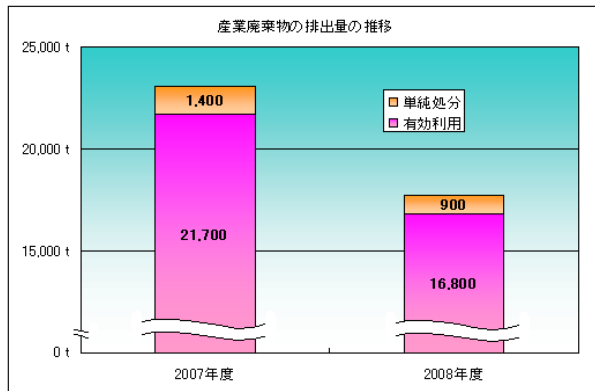
◆ 工場環境負荷低減活動

旭有機材はすべての事業活動において3R^{※1}の実践に努め、産業廃棄物の低減を進めております。発生した廃棄物については、廃棄物処理法に準拠して適正に処理しております。

また、愛知工場、栃木工場、広島工場では、お客様である鑄造工場より発生した使用済の砂を回収し、産業廃棄物中間処理業として再生処理を行い、RCSの材料として再資源化し、社会の廃棄物の減少・省資源化に貢献しています。

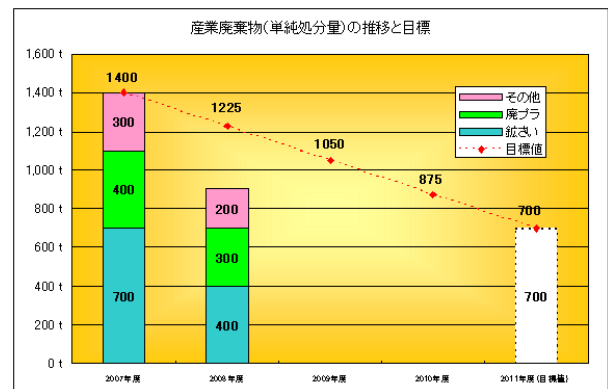
※1: Reduce(リデュース)、Reuse(リユース)、Recycle(リサイクル)の頭文字のことで

産業廃棄物の排出量の推移



このうち、単純処分(埋立、焼却など)については、2007年度に実績を元に2011年度までに排出量を50%にし、更には、排出量ゼロ(ゼロエミッション)をめざします。

各工場から排出される産業廃棄物について、マニフェストを元にグラフにまとめました。



◆ 植樹によるCO₂の吸収

旭有機材では、宮崎県が進めています「企業の森林づくり」に賛同し、経営理念の一つである「安全衛生・環境保全は使命です」を実践するため、2008年4月から延岡市北方町で「ゆうきの森」の植樹活動を行っています。

「ゆうきの森」植樹祭

第2回「ゆうきの森」植樹祭を2009年4月4日に開催し、昨年植樹した箇所の補植として山桜400本を植えました。

昨年植樹した7,500本^{※2}の若木の成長は、まだまだこれからといった感じです。いずれこの場所が、CO₂吸収と保水の役目を果たし、憩いの場所として提供できるように、これからも整備していきます。

※2: 2008年4月12日に実施 山桜、ケヤキ、モミジ等を植樹しました。



第2回 植樹祭(2009年4月撮影)

労働安全衛生

◆ 安全な職場づくり

旭有機材では安全衛生活動を推進し、従業員の安全と健康を確保に努めるとともに、快適な職場環境づくりを推進しています。

労働災害防止への取り組みとして、OSHMS^{※1}とりわけリスクアセスメント^{※2}とリスク低減対策を徹底することにより、労働災害の低減を推進しています。

※1:労働安全衛生マネジメントシステム(Occupational Safety & Health Management System)

厚生労働省が公表した「労働安全衛生マネジメントシステムに関する指針」で、全17条から成る。

※2:「情報収集⇒危険有害(リスク)要因の洗い出し⇒リスクの見積もり⇒リスクの評価」までの一連の工程をいう。
広義では、リスク低減対策を含める場合もある。

労働災害発生状況

2008年度の主な目標	結果
年千人率 ^{※3} 2.0以下(不休災害含む)	・3件の労働災害が発生し(年千人率は2.7)、目標をクリアできませんでしたが、いずれも不休災害で休業損失はゼロを達成しました。【災害内容:薬傷、飛来】
OSHMSの定着と活動の質の向上	・OSHMSに関しては、各地区共にリスクアセスメントを中心に定着してきました。 ・リスクレベル低減活動も確実に進捗しています。
安全査察の強化 安全衛生会議の効果的活用	・主要拠点で定着と徹底が図れました。

※3:労働災害の発生率を表す指標で、次の式により求められます。

$$\text{年千人率} = \frac{1000}{\text{在籍労働者数}} \times \text{年間労働災害件数}$$

◆ 労働安全衛生教育

旭有機材では、専門家による講演会の開催や、製造部門のオペレーター等の教育・訓練をとおして、労働安全衛生の意識の高揚に努めています。

安全週間・衛生週間での社内講演会

2008年度は、全国安全週間(7月1日～7日)に合わせ、専門家による安全講演会を開催しました。
また、全国労働衛生週間(10月1日～7日)には、精神科医でもある大学教授による衛生講演会を開催しました。



(安全コンサルタントによる安全講話)
題材:「企業のコンプライアンス」



(大学教授による衛生講話)
題材:「職場のメンタルヘルス対策」

◆ 労働安全衛生の社外との連携

旭有機材は工場ごとに、労働基準監督署、労働基準協会および県・市・消防などの地方自治体の総会や大会に参加するなど、社外の労働安全衛生に関わる施策に積極的に協力しています。

外部団体との連携



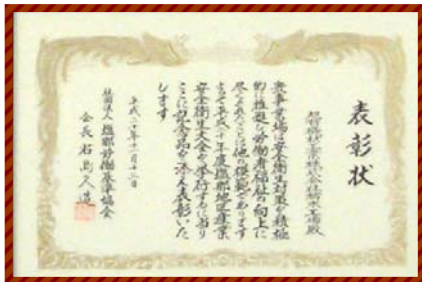
労働基準協会延岡支部主催 労働安全推進大会
労働基準監督署第二課長による記念講演



2008年度全国危険物安全週間期間中、延岡地区では、研究棟の国道側に懸垂幕を下ろし、危険物安全週間の啓蒙活動を行いました。

安全衛生表彰(社外表彰)

2008年11月に開催された塩那地区産業安全衛生大会において、塩那労働基準協会より、旭有機材栃木工場が日ごろの安全衛生活動に対し表彰されました。



栃木工場の表彰

2008年5月に開催された宮崎労働基準協会通常総会において、旭有機材エンジニアリング部の社員が長年、安全衛生活動の中軸として活躍された事で、優良従業員賞を受賞しました。



エンジニアリング部の個人表彰

健康の保持と増進

◆ 健康の保持・増進

受動喫煙防止への取組み

旭有機材では、健康保持活動として社会的にも対策が進められている受動喫煙防止について、2007年度から受動喫煙防止対策を推進しています。

全社の実態把握に始まり、各地区で1件ずつ対策した結果、2008年度末までに、29箇所あった受動喫煙場所のうち、28箇所の対策を完了(対策率97%)しています。残りの1箇所については、2009年度上期に完了しました。

「走ろう会・歩こう会」活動

健康増進活動として、「走ろう会・歩こう会」を、毎月第一水曜日を定例活動日として活動しています。

堤防やグラウンドを主な練習場所とし、体を動かすことで気持ちもリフレッシュし、また部署の枠を超えた仲間とのコミュニケーションも図られる等、快適な職場環境作りにもつながっています。

保安防災

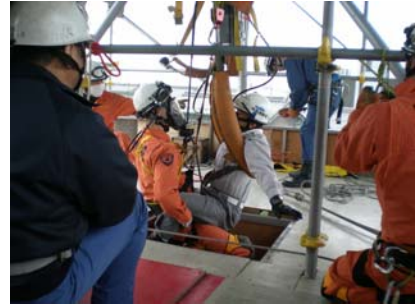
◆ 災害の未然防止と緊急対応

旭有機材では、各地区において災害を想定した防災訓練を行っています。また、工場では経営者による査察を行い、問題箇所を改善することで、事故を未然に防ぐとともに、事故が発生した場合には被害を最小限におさえるための管理体制の整備を図っています。

防災訓練の実施

「訓練は災害本番のように機敏に、災害時は訓練どおりに落ち着いて！」をモットーに、防災訓練(防火訓練)を各地区とも毎回、真剣に実施しています。

訓練終了後は、反省を加え、実施毎に内容が進化するように努めています。



愛知工場では消防本部の方がたの協力も頂き、「タンク内からの救出訓練」も実施しました。

工場の環境・安全査察

毎年、経営者による各製造現場の環境・安全査察を実施しています。2008年に計画し実施した「環境・安全査察」の種類と主な目的は次の表のとおりです。

査察の種類と主な目的

No.	査察の種類	主な目的
1	社長査察	環境・安全管理の最高責任者として両製造所の環境・安全活動の実践状況を査察し、必要な改善や是正処置を指示する。
2	事業部長査察	環境・安全管理の部門管理責任者として管轄する製造所管内の環境・安全活動の実践状況を査察し、必要な改善や是正処置を指示する。
3	製造所長相互査察	環境・安全管理の機能管理責任者(製造所長)の立場で、相互に査察し合い、管轄する製造所管内の環境・安全活動の参考にする。



社長査察



事業部長査察



製造所長査察

地域貢献活動と地域活動への参加

◆ 地域貢献活動

旭有機材では、事業特性や社会的課題を意識し、経営理念の「社会と共に歩みます」を実践するため、地域貢献活動を行っています。

献血活動への参加

地域貢献活動の一環として、全社各拠点において献血運動に協力しています。2008年度は、その長年の功績に対し延岡製造所と愛知工場が表彰を受けました。

○延岡製造所

『みやざき愛の献血運動推進県民大会』において、厚生労働大臣表彰を受けました。



○愛知工場

日本赤十字社より金色有効章を授与されました。



◆ 日米交流の架け橋

1979年にアメリカ合衆国のマサチューセッツ州メドフォード市にありましたアサヒアメリカ社（現在は同州モールドン市に移転）と当社との販売特約契約の締結にあたり、当時、メドフォード市商工会議所の会頭であったアサヒアメリカ社の社長バド・ルイス氏が、当社延岡本社の所在地である延岡市の市役所を訪問したことがきっかけとなり、メドフォード市と延岡市が姉妹都市として締結することになりました。



メドフォード市庁舎と石灯籠

メドフォード市庁舎前には、1980年の姉妹都市締結の記念として、当時の延岡市長と旭有機材社長の名前が記された石灯籠が設置されています。

アサヒアメリカ社では、1987年から始まったメドフォード市と延岡市との高校生交流プログラムをはじめ、ボストンの日系企業として日本国内の各地の高校生を海外研修として受け入れています。



アサヒアメリカ社での群馬県の高校生の研修

◆ 地域活動への参加

旭有機材では、持続可能な社会を築いていくために、地域社会との共存は大切であると考えています。そこで、各地域の特性や事業所の活動内容に合わせ、各地域イベントへの参加・協賛などの活動を行っています。

五ヶ瀬川イカダ下り大会(延岡地区) 7月20日

延岡市の夏の風物詩、『五ヶ瀬川イカダ下り大会』に参加しました。「大会参加者とそれに関わる人同士の親睦と交流を図り、またふるさとを再発見し、河川愛護の心を育てる」ことを目的としたこの大会に参加することで、改めて人のつながり、自然の大切さを考える機会となりました。イカダには、当社製品のパイプを使用し製品のPRも兼ねています。自然とのふれあひも融合した素晴らしい大会となりました。



延岡のぼりざるフェスタ(延岡地区) 10月18, 19日



延岡市を中心に宮崎県北部の9市町村が参加する恒例行事『のぼりざるフェスタ』に県北の企業として毎年参加しています。

この行事は、主に県北の地場産品の展示、販売や多彩なイベントを行っており、当社の製品を広く知っていただく機会と捉え、製品展示と製品説明を行うスペースを設けています。また、次世代を担う子供を対象としたレクリエーションスペースを設け、楽しんでいただきました。

地域の方とのふれあひ“旭有機材杯レクバレー大会”(愛知地区) 12月14日



今年で25回となります恒例の“旭有機材杯レクバレー大会”が、はなやかに開催されました。参加チームは、旭有機材バレーボール部をはじめ、近隣地区(扶桑町、江南市)からも多数エントリーしていただきました。

回を重ねる毎に参加者の技術が向上し、熱戦が繰り広げられました。

本大会を制したのは、今年も江南地区のチームでした。

参加していただいたチームの皆様ありがとうございました。今後も地域の方とのふれあひを大切にする行事として継続していきます。

夏のイベント



2008年7月26日
『まつり延岡 ばんば総踊り』



2008年7月26日
愛知工場恒例の夏祭り



2008年8月1日・2日
『第28回 与一祭り』

環境・安全報告書2009 発行に当たり

編集方針

旭有機材工業株式会社が2008年度に行った諸活動のうち、企業として環境・安全にかかわる取り組みについて報告します。

全体的な構成

この報告書は、環境・安全の5つの要素である「環境保全」「労働安全衛生」「保安防災」「健康増進」「製品安全」に、「地域貢献」を加えて構成しています。

対象組織範囲

旭有機材工業株式会社およびグループ企業

対象範囲

対象期間：2008年度
2008年4月から2009年3月まで（一部4月を含む）

参考にしたガイドライン

- ・環境省「環境報告書ガイドライン2003年版」
- ・環境省「環境会計ガイドライン2005年版」
- ・環境省「エコアクション21ガイドライン2004年版」

発行日および次回の発行予定

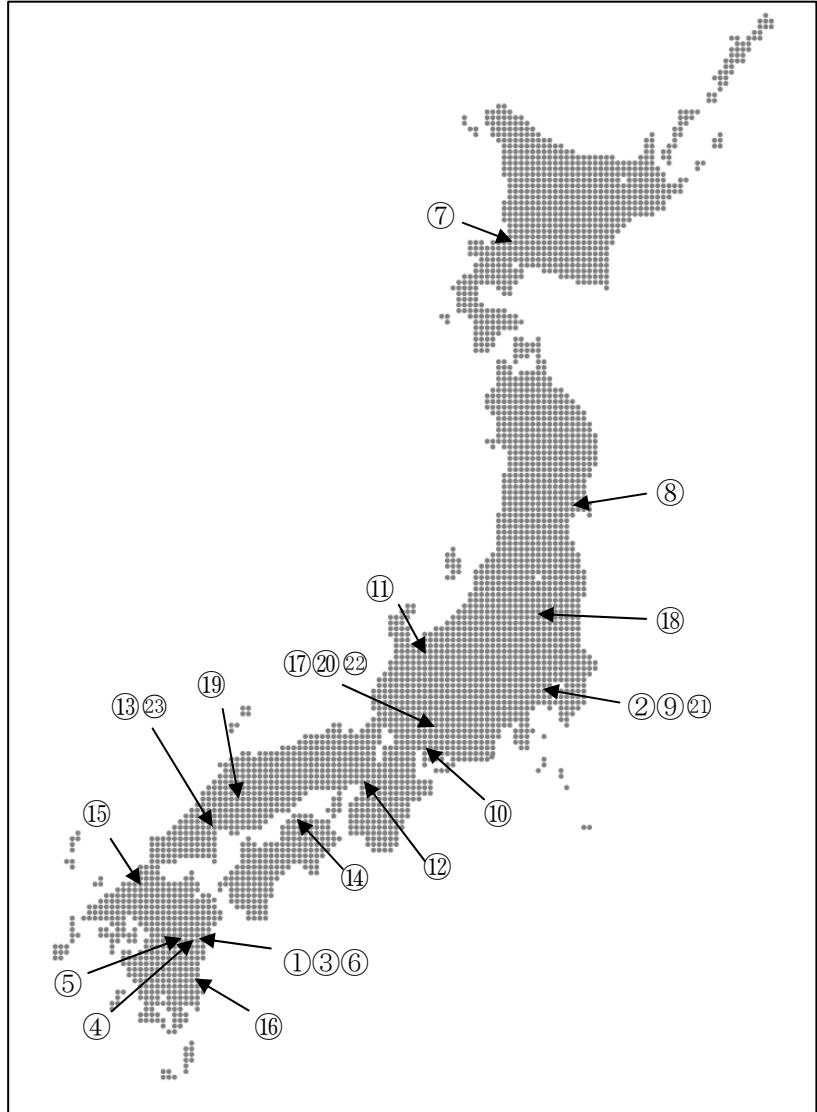
発行日：2009年10月
次回予定日：2010年9月

問合せ先

旭有機材工業株式会社
〒882-8688
宮崎県延岡市中の瀬町2丁目5955番地
TEL:0982-35-0891
FAX:0982-35-0943
問合せ・意見集約窓口：
環境安全・品質保証室 竹内厚至
E-mail: atsushi.takeuchi@asahi-yukizai.co.jp
◎編集責任者：
環境安全・品質保証室長 伊東利弘


国内拠点

本社	1	延岡本社	
	2	東京本社	
管 材 シ ス テ ム 事 業 部	3	延岡製造所	
	4	天下テクノセンター	
	5	北方工場	
	6	本社総合研究所	
	東 日 本 営 業 部	7	札幌営業所
		8	仙台営業所
		9	東京営業所
		10	名古屋営業所
		11	北陸営業所
	西 日 本 営 業 部	12	大阪営業所
		13	広島営業所
		14	高松営業所
		15	福岡営業所
		16	南九州営業所
	樹 脂 事 業 部	17	愛知工場
		18	栃木工場
19		広島工場	
20		愛知研究所	
素 形 材 営 業 部		21	東日本営業グループ
		22	中日本営業グループ
		23	西日本営業グループ



国内グループ会社

- ・北方プラスチック(株)
- ・エーオーシーアセンブル(株)
- ・エーオーシーテクノ(株)
- ・旭有機販売(株)
- ・旭有機販売西日本(株)
- ・中部旭有機販売(株)

 **旭有機材工業株式会社**
<http://www.asahi-yukizai.co.jp>